

9.5 研究活動と研究環境

9.5.1 研究環境

【評価項目 9-1-3】 研究上の成果の公表、発信、受信等

(選択要素) 研究論文・研究成果の公表を支援する措置の適切性

(選択要素) 国内外の大学や研究機関の研究成果を発信・受信する条件の整備状況

【評価項目 9-1-4】 倫理面からの研究条件の整備

(選択要素) 倫理面から実験・研究の自制が求められている活動・行為に対する学内の規制システムの適切性

(選択要素) 医療や動物実験のあり方を倫理面から担保することを目的とする学内的な審議機関の開設・運営状況の適切性

<2003年度に設定した目標>

1. 教員の研究論文・研究成果の公表を支援するために、紀要を発行する。
2. 学生の研究論文・研究成果の公表を支援するために、学会誌を発行する。

(現状の説明)

1. 本研究科には、大学院学生および教員からなる言語コミュニケーション文化学会があり、大学院学生全員に研究会「言語コミュニケーションフォーラム」で発表の機会が与えられ、また紀要『言語コミュニケーション文化』(年1回)への投稿の機会が与えられている。大学院学生の研究成果の発表の場として奨励している。
2. 言語教育研究センターでは紀要『言語と文化』(年1回)、大学全体では『欧文紀要』(年1回)を発行しており、こちらは専任教員の研究論文・研究成果を発表する場となっている。また、学術書については、全学的な制度として「関西学院大学叢書」制度が設けられており、この制度を利用した教員は12名である。
3. 本研究科および大学、言語教育研究センターでは国内の大学、海外の大学、教育研究機関との紀要、雑誌の交換が行われており、受け入れた雑誌、紀要は大学図書館および本研究科大学院学生自習室に配架されている。

(点検・評価の結果)

1. 大学院学生については、言語コミュニケーション文化学会発行の紀要『言語コミュニケーション文化』への研究成果の発表を促進しており、発表の機会は十分与えられている。
2. 専任教員に関しては、学内発行の紀要『言語と文化』、『欧文紀要』等への研究成果、研究論文発表の機会は十分にあり、また学術書の刊行についても刊行補助の制度があり、十分な支援が行われている。

(改善の具体的方策)

1. 今後、大学院学生が全国的学会での発表する場合、交通費の補助などを行うなどして、学会発表、論文発表をさらに奨励する。

2. 大学院学生自習室での受け入れた紀要の整理をすすめる。

9.5.2 研究活動

【評価項目 9-2-1】 研究活動

- (必須要素) 論文等研究成果の発表状況
- (選択要素) 国内外の学会での活動状況
- (選択要素) 当該大学院・研究科として特筆すべき研究分野での研究活動状況
- (選択要素) 研究助成を得て行われる研究プログラムの展開状況

【評価項目 9-2-2】 研究における国際連携

- (選択要素) 国際的な共同研究への参加状況
- (選択要素) 海外研究拠点の配置状況

<2003年度に設定した目標>

1. 「言語科学」「言語文化」「言語教育」の3つの領域に関する研究を深化させ、それらに関する研究論文・研究成果を発表していく。
2. 国内外の学会での活動をさらに促進する。

(現状の説明)

1. 教員は、「言語科学」「言語文化」「言語教育」の3つの領域において、活発な研究活動を行っている。2004年度については、5名の教員が科学研究費補助金を得て、それぞれの専攻分野に関する研究を行っている。大学院学生の学会発表数と論文発表数は、それぞれ2002年度22件、1件、2003年度20件、11件、2004年度24件、5件となっている。
2. 各教員の研究成果は、学会での発表、講演、紀要や学会誌への論文掲載、著書などの形で、活発に外部に公表している。学会での役員も多く、2004年度現在、全国的学会の会長1名、副会長1名、支部長2名、副支部長1名、学会理事10名である。最近の学会賞の受賞者は以下の通りである。

八木克正教授 (1999年) 英語語法文法学会賞『英語の文法と語法—意味からのアプローチ』(研究社)

門田修平教授 (2002年) 大学英語教育学会賞『英語の書きことばと話しことばはいかに関係しているか—第二言語理解の認知メカニズム—』(くろしお出版)

田村和彦教授 (2004年) 日本独文学会賞『魔法の山に登る—トーマス・マンと身体』(関西学院大学出版会)

また、研究書の出版も積極的に行われている。主なものを以下に挙げる。

2001年度

紺田千登史教授『フランス哲学と現実感覚—そのボン・サンス系譜をたどる』(関西学院大学出版会)

山本雅代教授 Language Use in Interlingual Families :A Japanese-English Sociolinguistic Study. Multilingual Matters Ltd.